

## 日本福音主義神学会中部部会 40 年の歩み —自分史と重ね合わせて—

松浦 剛

### 1. はじめに

筆者は太平洋戦争中の 1944 年に生まれ、2021 年 9 月には 77 歳となった。思うところがあって、400 字詰原稿用紙 24 枚で自分史を執筆した。10 年分を 3 枚で書き、日曜日ごとに今仕えている日本イエス・キリスト教団尼崎福音教会の外掲示板に張り出した。それを 8 回実施したら 77 年間の歩みが簡潔に書き上がった。教会近隣の方々や信徒が関心を示された。そのことに力を得て、日本福音主義神学会中部部会 40 年の歩みを、筆者の自分史と重ね合わせて記述することにした。多少おかしいところはあるものの、筆者のような無学な牧師が名古屋の地で 43 年間も 1 つの教会に仕えることができたのも、中部部会の交わりに加えていただいたから、というわけがご理解いただけるだろう。

### 2. 中部部会発足までの前史（松浦剛、37 年間の個人史）

(1) 1944 年～1948 年の 5 年間—1944 年 9 月 30 日に、兵庫県明石市にて、警察官の長男として誕生した。1945 年 3 月に大空襲があり、生後半年の赤子を背におんぶした母親は、「この子を死なせてなるものか」といって、明石の海岸を空から降る攻撃弾を避けて逃げ走った。それ故、母子は命を保った。8 月 15 日にわが国は連合国軍に敗戦する。後年に通うことになる日本基督教団明石人丸教会（当時）は、戦火をまぬがれて消失せずに済む。1946 年、1 月 1 日、

昭和天皇による神格否定詔書が読まれる。1918 年生まれの父親吉兼が病死した。11 月 3 日、日本国憲法が公布される（施行 1947 年 5 月 3 日）。B・F・バックストン、イギリスにて召天する。1947 年、教育基本法制定により新制中学校他の新教育制度が誕生した。1947 年、8 月、ヘレン・ケラー来日、11 日極東国際軍事裁判判決。

(2) 1949 年～1953 年の 5 年間－1949 年、4 月 GHQ、1 ドル 360 円の単一為替レート設定を発表。11 月湯川秀樹にノーベル物理学賞。1950 年、剛、人丸幼稚園に入園して 1 年保育を受ける。1951 年、4 月、剛、明石人丸小学校に入学した。7 月、日本イエス・キリスト教団創立される。創立時教会数 21、教団代表役員小島伊助であった。5 月、日本福音連盟（J E F）が結成された。1952 年、小学 2 年生となる。小 1 の時は自宅から小学校までの登り坂の通学路を喜んで歩いた。小 2 になると、小学校までの遠い道を辛く感じるようになる。学校で描いた日の丸の旗の絵を自宅に持ち帰ったら、居間に張り出してくれた。近所の人も見に来てくれた。1953 年、2 月、NHK テレビ放送開始される。12 月奄美群島返還日米協定が調印された。

(3) 1954～1958 年の 5 年間－1954 年、4 月、小学校 4 年生となり部活ラジオクラブに入部し、卒業までラジオの組立てに情熱を注ぐ。日本イエス・キリスト教団代表役員小島伊助がこの年から翌年にかけてアメリカ、ブラジルから招かれて諸教会で説教する。12 月、日本基督教団出版局から『讃美歌』発行される。1955 年、4 月、日本聖書協会から口語訳聖書発行される。日本イエス・キリスト教団の諸教会、この聖書を公用聖書とする。小 5 の担任から明石市にカトリック教会が新設されたことを聞く。1956 年、2 月にビリー・グラハムが来日し、日本イエス・キリスト教団の牧師たちも注目した。1957 年、3 月に小学校を卒業し、4 月に大蔵中学校に入学。1958 年、11 月に日本福音連盟から『聖歌』発行される。福音派の讃美歌集として広く用いられた。

(4) 1959～1963 年の 5 年間－1959 年、9 月 4～30 日に東京クリスチャン・クルセードが開催された。伊勢湾台風によって東海地方は甚大な被害を受け、東西のキリスト者のボランティアが奉仕。12 月に月刊『キリスト』発行。1960 年、剛、明石南高校に入学。生物や数学の授業に関心を示す。2 月 23～24 日、日本プロテスタント聖書信仰同盟結成。10 年後には発足する日本福音主義神学

会へのつなぎ役をも果たす。9 月カラーテレビ本放送開始。1961 年、剛、4 月に日本イエス・キリスト教団明石人丸教会のバイブルクラスに出席する。日本伝道隊サウンズ宣教師の指導を受ける。1962 年、4 月、明石人丸教会の日曜礼拝に出席。9 月に道城重太郎牧師から受洗。1963 年、4 月に近畿大学農学部農学科に入学する。8 月、キリスト者学生会関西地区夏季学校（宮島）に参加する。講師田中剛二他。

(5) 1964～1968 年の 5 年間－1964 年、3 月に明石人丸教会信徒の多くが購読した月刊『みぎわ』（西村次郎編）が終刊。4 月から『信徒の友』（日本基督教団出版局）が創刊された。剛、月刊『キリスト』（NCC 文書事業部刊）を購読する。20 歳成人となり、はじめて背広を着る（その服が 77 歳の今も着用可能）。中高理科教員免許取得を目指す。1965 年、大学 3 年生。夏に北海道帯広で農家実習する。関西聖書神学校校舎新築され、秋に塩屋聖会があり出席した。信仰が深まる。1966 年、大学 4 年生、5 月に母校明石南高校で教育実習を受けた。『植村正久と其の時代』（教文館）、『大漢和辞典』（大修館書店）を購入。1967 年、3 月に近畿大学を卒業、4 月に九州大学農学部農学科研究生となって学ぶ。1968 年、4 月に関西聖書神学校に入学した。日本福音同盟が結成されたと聞く。

(6) 1969～1973 年の 5 年間－1969 年、神学校 2 年生。神戸中央教会（仁科博雄）にて教会実習を受けた。日本プロテスタント聖書信仰同盟大阪大会があり、神学生全員で出席し、薦田二雄の聖書信仰に関する講演を聞いて印象深い学びをした。1970 年、4 月 29 日、日本福音主義神学会が創立されたことを聞く。歌垣教会にて教会実習を受け農村地域の教会形成をつぶさに見る。1971 年、5～8 月に福島県の牧師不在の白河栄光教会で奉仕。9 月以降は北大阪教会（大阪市旭区）で教会実習を受けた。日本基督教団の教団紛争の影響を受けた神学生が何人か出て、関西聖書神学校を自主退学で去った。1972 年、3 月に神学校を卒業し、4 月に日本イエス・キリスト教団尾上聖愛教会伝道師となる。1973 年、4 月に泉みち子と結婚し、和歌山県の由良教会に赴任した。

(7) 1974～1978 年の 5 年間－1974 年、3 月に夫婦とも日本イエス・キリスト教団補教師となる。1 月に長女直子が誕生した。6 月 3～7 日、京都にて第 1 回日本伝道会議があり、参加した。11 月、日本基督教団讃美歌委員会主催キリスト教音楽講習会が神戸女学院大学にて開かれ参加した。原恵から「日本の

讃美歌 100 年」の講義を聞く。1975 年、新幹線が博多まで行く。ベトナム戦争がようやく終結する。1976 年、2 月に長男出（いずる）が誕生。1977 年、3 月に日本イエス・キリスト教団正教師となり、牧師按手礼を受けた。名古屋教会へ転任する。開拓伝道であったので、地下鉄中村公園出口の所で 100 日路傍伝道をした。1978 年、4 月に第 2 回 100 日路傍伝道をする。7 月に近くの空き地で天幕伝道会を開く。5 月に成田空港開港式。9 月に日本聖書協会から新約聖書共同訳が発行された。

(8) 1979～1981 年の 3 年間－1979 年、4 月に第 3 回 100 日路傍伝道をする。7 月に第 2 回天幕伝道会を前年にまさって力強く開く。名古屋市開拓伝道の借家の家賃年額 36 万円が教区からの支援で賄われてきたが 3 月末に打ち切りとなる。打撃となったことは確かであるが、全能の神への依存を強めたという点で意味があった。日本イエス・キリスト教団西大寺教会（赤江弘之牧師）が所属教団を離脱した。1980 年、4 月第 4 回 100 日路傍伝道を実施した。7 月第 3 回天幕伝道会を開く。4 月に東京基督教学園新発足する。秋にビリー・グラハムが来日し、ビリー・グラハム国際大会東海大会に参加協力した。所属教団発行『聖書日課』旧約講解に執筆を始めた。1981 年、3 月、同じ町内で教会移転して貸店舗部分を 60 席の礼拝堂に改装した。4 月にマザー・テレサ来日名古屋で公演聞く。6 月に次女星子が誕生した。

### 3. 中部部会 40 年の歩み（松浦剛 40 年間の個人史も含む）

(1) 1982～1986 年の 5 年間－1982 年、7 月 13 日（火）午後 3:45、中部部会設立総会、9 名出席、西部から 6 名参加。理事長に黒川雄三を選出。午後 5:00 講演会、講師鍋谷克爾「福音主義神学の奨め」、午後 7:00 講演会、講師清水汎「太宰治と聖書」。会場は大韓名古屋教会。11 月 8 日（月）午前 10:00、研究発表会、佐々木保雄から「労働についての一考察」、河野勇一から「教会成長運動は聖書的か」。1983 年、5 月、中小企業センター会議室にて、第 2 回総会。講演会講師丸山忠孝「ただキリストのみが聞かれるべきである」、「キリスト者の生き方」。11 月、研究発表会、村上久から「福音主義における“最後の晩餐”の記述をめぐって一過ぎ越しの食事あったのか、そうではなかったのか」、安村仁志から「ギリシャ

正教神秘神学の一面」。1984 年、5 月、第 3 回総会。講演会、講師津村俊夫「創世記 1－3 章の解釈をめぐって－その歴史性とのかわり」。11 月、研究発表会、内村徹母耳から「説教論」。1985 年、5 月、第 4 回総会。講演会、講師稲垣久和「生命科学とプロテスタンティズムの倫理」「進化論とキリスト教の世界観」。11 月、研究発表会、エミー・ミューラーから「《女性の頭は男である》ということと女性の奉仕との関係」、明田勝利から「信仰告白としての新約聖書における《主》の意味」。1986 年、5 月、第 5 回総会、理事長に河野勇一を選出。講演会、講師宇田進「今、聖霊について何が問題となっているのか－争点と聖書的展望」。11 月、研究発表会、金田幸男から「女性、自由、カルヴァン」、兼松一二から「十戒は単なる道德律か」。

松浦個人史－1982 年に第 2 回日本伝道会議（京都）に参加した。1983 年に「小島伊助全集」（9 巻）刊行され、神学校時代の恩師の教えを全集で味わう。1984 年、所属教団援助金年間 3 万円を自主返上して完全自立の教会となる。4 月に岐阜県各務原市で開拓伝道着手。三女あんが誕生した。1986 年、所属教団発行『聖書日課』に旧約講解を 6 年間に 400 章分書き、この年で終了した。

(2) 1987～1991 年の 5 年間－1987 年、5 月、第 6 回総会。講演会、講師久保田周「異教社会におけるキリスト者の生活－特に仏教との関連において」。11 月、研究発表会、鈴木健之から「明治期聖公会の岐阜伝道の研究」、西堀則男から「韓国人の精神とキリスト教」。1988 年、5 月、第 7 回総会、理事長に金田幸男を選出。講演会、講師有賀寿「福音と文化－特に社会的召しの観点から」。11 月、研究発表会、小野静雄から「学生キリスト教運動における神の国と教会」。入川達夫から「福音と文化－日本人に対する宣教論の一考察」。1989 年、5 月第 8 回総会。講演会、講師宇田進「コンテクスチュアライゼーションの課題－特に具体的な問題との関わりで」。11 月、研究発表会、後藤喜良から「大嘗祭の諸問題」、櫻井罔郎から「法と神学」。1990 年、5 月、第 9 回総会。理事長に鈴木健之を選出。講演会、講師牧田吉和「現代における聖霊論の問題」。11 月、研究発表会、原口貞吉から「大嘗祭の問題」、水上勲から「解釈学の諸問題」。1991 年、5 月、第 10 回総会、講演会、講師鍋谷克爾「現代福音主義神学の動向」。11 月、研究発表会、奥御山頼義から「同盟高山教会の週報に見る戦争中の礼拝」、安村仁志から「ロシア文学における聖書的課題」。

松浦個人史－1987年、9月5日に日本聖書協会から新共同訳聖書が発行され、心を集中して味読した。1989年、近江兄弟社発行月刊『湖畔の声』に650字でエッセーを連載する。専門学校名古屋 YMCA 学院で基督教の授業を担当、1995年春まで続ける。1990年、4月に次男子基誕生。8月に母はな召天。名古屋教会牧師館土地建物を所属教団名義で入手。自著「一冊の聖書があなたを変える」発行。1991年、『日本イエス・キリスト教団40年誌』に教団歴史年表を執筆。自著『ハレルヤ、神様の恵み』を発行。第3回日本伝道会議があり参加した（塩原）。

(3) 1992～1996年の5年間－1992年、5月、第11回総会、理事長に水上勲を選出、講演会、講師津村俊夫「旧約における聖書解釈と説教の接点」。11月、研究発表会、松浦剛から「農耕的聖書解釈の試み」、安田恵嗣から「正典としての聖書」、R・ヤングブラッドから「最近の旧約学における諸問題」。1993年、5月、第12回総会、講演会、講師中村敏「日本における宣教の原点を探る」。11月、研究発表会、杉山明から「レビ記の神学をめぐって」。1994年、5月、第13回総会、講演会、講師石黒次夫「美濃ミッション事件とその教訓」。11月、研究発表会、後藤喜良から「現代における礼拝のあり方について」。1995年、5月、第14回総会、講演会、講師内田和彦「聖書が教える《霊の戦い》」。11月、研究発表会、井上二郎から「信教の自由が守られるために一教会の課題」。1996年、5月、第15回総会、講演会、講師渡辺信夫「教会の戦争責任と今後の展望」。11月、研究発表会、渡辺睦夫から「みことばと御霊の間」。

松浦個人史－1992年、名古屋東教会（千種区）設立。1993年、社会保険と厚生年金に加入。1994年、4月に稲葉地小学校 PTA 副会長、6～11月に胃病と肺炎を病み療養した。1995年、『福音主義神学』26号の編集委員になり、さらに34～39号でも奉仕した。豊正中学校 PTA 会長を2年間務める。1996年、近江兄弟社発行月刊『湖畔の声』に誌上説教執筆、2020年3月まで24年3か月間続けた。

(4) 1997～2001年の5年間－1997年、5月、第16回総会、講演会、講師橋本昭夫「礼拝の秘儀とダイナミズム」。11月、研究発表会（パネルディスカッション）、パネリストおよび主題、杉山明「なぜ詩篇歌を歌うのか」、井上義「世界の現代讃美歌の流れについて」、野町真理「ワーシップ・プレイズと礼拝」。

1998年、5月、第17回総会、理事長に松浦剛を選出。講演会、講師加藤常昭「届く言葉を求めて」。11月、研究発表会、服部滋樹から「新約聖書におけるエルサレム」。1999年、5月、第18回総会、講演会、講師鷹取裕成「旧約聖書からの説教」。11月、研究発表会、西岡義行から「プロテスタントにおける教会と宣教の相互関係」。2000年、5月、第19回総会、講演会、講師藤原導夫「ポスト・モダンと説教の行方—聖書と今日の人々を結ぶ説教を求めて」。11月、研究発表会、神谷聡子から「『讃美歌21』についての一考察」、レスポンス、安西幸男「讃美歌21の歌詞の神学的意味、後藤喜良「讃美歌21を教会で使用して」。2001年、5月、第20回総会、講師岡山英雄「患難期と教会（黙示録の終末論）」。11月、研究発表会、鈴木英昭から「北米の長老教会の歴史と日本キリスト改革派教会」、石川正から「コミュニケーション・ツールとしてのインターネットに関する一考察」。

松浦個人史－1997年、2月に「讃美歌21」（日本基督教団出版局）が発行され、翌年1月から日曜礼拝で使用するため周到な準備をする。1998年、はからずも、福音主義神学会中部理事長に選ばれた。『福音主義神学』29号に研究ノート「堀内文一の神学—その評価と今日的影響」を書く。1999年、愛知県立昭和高校 PTA 会長となる。2000年、所属教団発行『戦争責任』に「日本の戦争」を寄稿し、日清・日露・太平洋戦争について執筆した。エッセイ集『目覚める日の朝』（共著）出版。第4回日本伝道会議（沖縄）に参加した。

(5) 2002～2006年の5年間－2002年、5月、第21回総会、中部部会設立20周年記念講演会、講師牧田吉和「福音主義神学における21世紀の課題—終末論をめぐって」。11月、研究発表会、安村仁志から「ロシア正教会の現状—世界の動き、福音宣教を考えるために」、野町真理から「『神の痛みの神学』のキリスト中心的理解—キリスト者の生活における苦難の積極的意味を求めて」。2003年、5月、第22回総会、理事長に安村仁志を選出。講演会、講師藤本満「女性教職者論」、東海聖書神学塾と共同主催神学講演会、講師ミラード・エリクソン「岐路に立つ福音主義」（1「三つの誤った道」、2「選ぶべき道」）。11月、研究発表会、東正明から「イエスの目的対応について—牧会からカウンセリングの応用のために」、相馬伸郎から「日本改革派教会の創立と日本における福音主義教会形成の課題について」。2004年、5月、第23回総会、講演会、講